

ブラジルの金融市場動向 Weekly Report

【2017年2月4日～2017年2月10日の推移】

【1】先週の回顧

先週のブラジル・レアルは、対円で上昇しました。債券は金利が低下しました。

1月分のインフレ率が前月から低下したことを受けて市場では次回Copom(金融政策委員会)(現地2月22日)での利下げ観測が強まりました。これを受けて債券市場では金利が低下しました。

海外要因では、米国のトランプ大統領が今後2、3週間で税制と航空インフラに関する画期的な発表を行うと発表し、公約である減税の具体策が発表される期待感を強めました。世界的に株価が上昇した中でブラジル株も上昇し、リスク・センチメントが改善したことがレアル上昇の要因となりました。

またテメル大統領は、飛行機事故で死亡したザバスキー最高裁判事の後任としてモラエス法相を推薦しました。

【2】今週の見通し

今週は小売売上高や経済活動指数など実体経済指標が発表されます。景気回復が遅れる中、来週のCopomを控え、結果次第では金融緩和期待を強める可能性があります。一方、政界汚職捜査は継続しています。現職法相の最高裁判事への抜てきは、三権分立を脅かし汚職捜査を緩ませかねない反面で、過剰捜査への抑止力になり国会が空転するリスクを低下させています。賛否両論がありますが、テメル政権の目指す社会保障改革にとってはプラス材料です。今月末のカーニバル明けから本格化する国会で社会保障改革法案の審議とその成立を目指し、テメル政権は用意周到な準備を進めている模様です。

公的年金支給年齢の引き上げや社会保障改革などの緊縮策には各方面から反発も予想されますが、政権が財政健全化を着々と進め、海外投資家の信認改善が続いた場合には、ブラジルへの投資活発化を通じてレアルが下支えされることが期待されます。

【3】主要経済指標

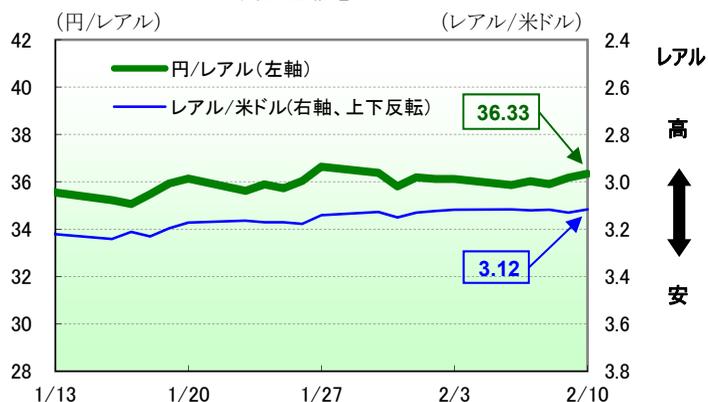
発表日	発表頻度	期間	指標名	データ	(参考)前回
2/7	毎週	--	貿易収支(週次、百万米ドル)	212	282
2/8	毎月	2017年1月	インフレ率(前年同月比)	5.35%	6.29%
2/14	毎月	2016年12月	小売売上高(前年同月比)	--	-3.5%
2/16	毎月	2016年12月	経済活動指数(前月比)	--	0.20%
2/16	毎月	2016年12月	経済活動指数(前年同月比)	--	-2.02%
2/17	毎月	2017年1月	経常収支(百万米ドル)	--	-5,881

(出所:ブルームバーグより大和投資信託作成)

当資料のお取り扱いにおけるご注意

- 当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。
 - 当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。
 - 当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。
 - 当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。
- 販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>

【ブラジル・レアル 為替推移】(2017年1月13日～2017年2月10日)



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

【ブラジル 金利推移】(2017年1月13日～2017年2月10日)

